

Fly Into Tomorrow—JAL整備工場の見学にて

北京理工大学学生代表

見学日時：2017年11月28日（火）14:00-15:30

見学場所：日本航空株式会社

見学概要

JALの整備工場に到着すると、私たちは同社のスタッフから熱烈な歓迎を受けた。その後二つのグループに分かれて、それぞれ1-2名のスタッフの案内の下で見学することになったが、その前にJALから客室乗務員の制服での記念写真という特別な「プレゼント」を受け取った。記念写真の撮影が終わり、二つのグループはJALの整備工場の見学を始めた。

皆はまず工場の観察用の台に上り、工場全体を見渡した。整備工場は中国語では維修工場の意味で、内部には補修やメンテナンスを行う予定のJALの飛行機が停泊していた。スタッフの詳しい解説により、私たちはメンテナンスの周期、設備そしてプロセスを含む関連知識について知ることができた。その後私たちは配られたヘルメットを被り、観察用の台を下りて間近でメンテナンス予定の飛行機を見学した。

そこでは、スタッフから私たちに飛行機の離陸及び着陸のプロセスの紹介があり、さらに指示灯を通じた飛行機の機種そして飛行方向の見分け方について教わった。また私たちは飛行機の着陸の様子を目にすることができた。その後質疑応答となり、スタッフからは丁寧な回答を頂いた。

最後に私たちは休憩室に戻り、スタッフの案内の下整備工場を後にした。そしてスタッフが手を振り見送る中で、訪日初日の最初の企業訪問を終えた。

なぜですか？

1. 飛行機の着陸プロセスにおいて、機体と地面との角度は二度変化する。最初は三度前後に維持されるが、その目的は飛行機を降下させるためである。それから接地の直前に一度に維持される。その目的はハードランディングによる反動が原因で事故に繋がることを回避するためである。
2. 飛行機には三種類の減速方法がある。一つめは機翼の一部を折り畳み風の抵抗で減速する方法。二つめはエンジンを逆噴射し反動力により減速する方法。三つめは着陸後にタイヤと地面の摩擦力を利用し減速する方法である。
3. JALの飛行機のメンテナンス周期に関しては、毎回の着陸と離陸前の「T点検」、1ヵ月から2ヵ月毎の「A点検」、7～10日間をかけ検査する一年半に一度の「C点検」、6～8年に一度の「M点検」がある。



整備工場内で「C点検」予定の飛行機

感想

日本航空(JAL)の整備工場の見学を終えて一番印象深かったのは、その緻密で細やかな作業理念であった。工場内で私が目にしたのは雑然としたメンテナンス設備ではなく、また聴こえたのは工場にありがちな様々ながやがやとした騒音ではなく、私が目にしたのは、きちんと停泊された各飛行機、整然と置かれた部品やヘルメット、静かに作業をするスタッフ、そして常に注意を引く心温まるキャッチフレーズで、聴こえたのは、工場の外で飛行機が離着陸する音だけであった。この点については、どの企業も学ぶべきものだと思う。航空安全は極めて重要であり、日本で最大規模の航空会社の一つである日本航空は、日本で最も多い国際線拠点と延べ搭乗者数を有し、非常に大きな責任を担っている。その立場にあるものは、その責任を負わなければならない。日本航空はその緻密で細やかな姿勢により乗客の安全を保障し、日本の航空事業の振興という責任を担っている。同社のキャッチフレーズである Fly Into Tomorrow のように、今後日本航空が一層発展し、より多くの人々へ奉仕できるよう期待している。



安全のため赤いヘルメットを被る